

# NCC畜産ニュース

## 和牛繁殖農家を訪ねて

### 繁殖農家の環境と生活

#### ワークライフバランスの実現

ワークライフバランスという言葉がよく言われるようになったが、農業においてもそれを実現していくということが、これからの日本にとって大きな意味を持つ。

自然や社会の環境に左右される農業では、色々な環境の変化の中で安定した牧場経営を継続していくことは実は非常に難しく、普通の生活を続けるということが困難な場合もある。それを「今は実現できている」とさらりという川野さんの牧場経営への自信の源を聞いてみた。



川野牧場(大分県佐伯市)川野さん

## 川野牧場

大分県 佐伯市

大分県佐伯(さいき)市の郊外、住宅地の近くに川野牧場はある。海、山、里が揃う自然の豊かな同市は、県内随一の水産都市として有名だが他の農林業も盛んである。町の中心の日豊本線佐伯駅から車で10分

ほど、住宅地を抜けたところに牧場はあった。やや意外なロケーションだ。川野牧場は、ここで50頭ほどの親牛を飼育している和牛繁殖農家である。もともとは酪農をやっていたが、10年ほど前から和牛繁



殖専業となった。その後色々試行錯誤して、今は安定した成績があげられるようになったという。

8月初めの暑い日、大分県佐伯市にある川野牧場を訪ねた。出迎えてくれた川野さんは精悍で誠実な感じのする人だった。

ここは50頭ほどの親牛を飼育している和牛繁殖農家である。父親の代からやっているこの牧場は、以前は酪農専業だったという。しかし牛乳価格の低迷などあつて、和牛繁殖も始めたが手が足りなくなつたこともあり、10年ほど前に思い切って和牛繁殖専業とした。確かにそういわれてみると、牛舎内には酪農のための施設がまだ残っているのがわかる。

新たに和牛繁殖をやつていくということでは最初は大変だったと思うが、それについて川野さんはあまり語らない。むしろ酪農をやめて毎日の乳搾りの作業がなくなつた分、時間ができたので餌となる牧草を自分たちで作るなどの工夫をして経営を安定させてきたことなどを話してくれた。

牛舎を見せてもらった。酪農をしていたときと同様に牛は繋がずに飼つており、健康なような牛がのんびりと歩いている。家の隣に牛舎があり、専業なのでほぼ四六時中牛の面倒は見られるという。川野さんによれば牛の基本はなんと

## 牛の管理はスマホで!

もともと酪農をやつてきた頃から牛の管理システムは使つていたが、サポートが切れて古いパソコンでしか使えなくなり、次はどうしようかと思つていたら、クラウドをベースにしたmoopadの話を知り、使いはじめた。

スマホで繁殖状況の管理ができるため、簡単に使い勝手が良い。

moopadでやつていくのはまず牛を1頭ごとにその状況などを管理することだが、特に助かるのは手書きだった書類がシステムで印刷できること。

また、スマホの通知機能が非常に便利で、今までもカレンダーを貼つてそれを毎日見てその日の予定を確認してきたが、「通知があると全然ちがいます」という。

確かにスマホだとどこにいても予定が確認できるし、母牛の状態をタイムリーに他の人と共有することも簡単にできる。



「牛の基本は繁殖です」と川野さんは再度強調する。そのためにはデータをこまめに入力することが必要になるが、スマホなので現場で簡単に入力できる。そのような努力の結果、和牛繁殖を始めてまだ10年だが「繁殖成績はかなり良くなつてきた」という。

川野さんは入力されたデータをさらに活用して、残す牛を判断する助けになればと考えている。どの牛が良いかということは経験でいたいわかるのだが、それでも綿密にデータをとつてみると目立たないが優秀な牛が見つかったりすることがあるという。

父親を継いでこの牧場を現実的に取り仕切っている

営を継続して続けていくということが実は一番難しい。そのために川野さんは様々な努力や試みをしてきており、それが「自分の代は大丈夫」という自信になつていけるのだと思う。その中でシステム化とデータの活用は重要な要素であり、川野牧場の将来のためにmoopadが一助となつていけるであろう。



寄稿：中小企業診断士 北岡 正一

畜産農家の強い味方! ビッグデータで、もっとラクに、確実に!



【お問い合わせ】  
株式会社日本コンピュータ  
コンサルタント CS部  
福岡市博多区博多駅東1-  
11-5 アサコ博多ビル8F  
TEL 092(411)8259  
担当：高倉まで

# NCC畜産ニュース

## ノウハウの継承とITの役割

### 議論の中心にタブレットを置いて

富貴茶園には14ヘクタールの広大な茶畑がある。一方、繁殖黒毛和牛の放牧場も同様の規模があり、ここでは親子放牧による肉用牛の繁殖が行われている。

永松英治さんが大分で始めた放牧による肉牛の繁殖は「永松方式」と呼ばれている。放牧のコストが安くストレスのない健康な牛が育つこの方式は広く知られるようになり、多くの人がここを訪れる。これを広めて行くことが多くの人に望まれており、永松さんの持つノウハウを理論としてまとめてゆく必要がある。そのためのITの役割についてお話を伺った。

# 周年親子放牧「永松方式」の拡がり

## 富貴茶園 (大分県豊後高田市)



富貴茶園の茶畑と繁殖黒毛和牛の放牧場



大分県豊後高田市の富貴寺は国宝の大堂で有名だが、その近くに今回訪れる富貴茶園がある。お茶の栽培、加工、販売を行っている富貴茶園には、14ヘクタールの広大な茶畑があり、機械化を進めていることでも知られている。

しかし今回はお茶の話ではない。ここでは新たな放牧飼養形態(周年親子放牧)による肉牛の繁殖も行っているのだ。永松さんが繁殖農家を始めた12年前当時、この地域では肥育農家が多く、繁殖農家はあまり多くなかった。

どうして茶園で牛を飼っているのだろうか。きっかけは13年ほど前に県のレンタルカウ制度を勧められたことだという。この制度は牛を使って遊休地や荒地の除草を行うために県が牛を貸し出すものだ。

3頭の牛を放して1年経ってみると、牛は草を食べて元気に育ち、子牛まで生んでいた。社長の永松英治さんはそれまで一度も牛を飼ったことはなかったが、この結果でビジネスとして放牧で牛を飼ってみたいとなったという。それも子牛を産ませる繁殖農家だ。

### 既成概念を覆した放牧による繁殖

当時、繁殖農家を放牧でやるところはなかった。放牧では子牛が大きくなると、必ず失敗すると随分言われたそうだ。それでも頑固に放牧にこだわったのは、茶園も手間がかかるが放牧ならできると考えたのだという。

牛には素人の永松さんだったがビジネスの勘のよいなものがあったのではないかと感じる。

試しに牛を2頭買ってきて放牧したところ、生まれた子牛は元気に育って出荷できた。これで手応えを感じた。

放牧のメリットはまずコスト。餌代も人件費も安い。さらに重要なのはストレスのない健康な牛が育つという点だ。繋いで牛を飼えば堆肥の処理などもある



富貴茶園・永松英治さん

が、それが必要ない。自然分娩がほとんどで介助することも少ないという。無難なことづくめではないだろうが、メリットが多い。繁殖農家での放牧は珍しいだけに今までなかったノウハウを貯めていかないといけない。そうやって少しずつ牛を増やして現在は母牛が37頭いる。

### 「永松方式」のノウハウ

永松さんが大分で始めた周年親子放牧による肉牛の繁殖は「永松方式」と呼ばれている。この成功を見て、同じように放牧に挑戦する人が増えてきた。

しかし全ての人が成功するわけではないという。永松さんはそれを「センスのようなもの」があるのだという。

センスという最初から備わっているもののように聞こえてしまうが、おそらくそれは牛を観察し問題があれば対応することを積み重ねて作り上げたノウハウであり、それを可能とした強い意志であると思う。

### 議論の中心に

永松方式は広く知られるようになり、多くの人がここを訪れる。この日も県の職員の方など何人かの訪問者があり、牛の育て方などについて活発な議論があった。

その様子を見ていて気がついたことがある。議論の中心にタブレットがある。

他の牧場と同じように、ここでもずっと紙の台帳でやってきたが、システム化ということ

は以前から頭にあり、色々調べていたところ、全国和牛登録協会大分県支部から紹介されてすぐにmoopadを導入した。

茶園の経営でも機械化して効率をあげるこ



永松さんの元には大勢の人が訪れる

とにこだわってきた永松さんにとっては、それは当然のことだったようだ。最初のデータ入力にPCを使っただけでよかった。

### moopadをデータ基盤に

今はまだ全てのデータが電子化されているわけではなく、紙の台帳を見ながら話をすることも多い。1回目の種付けで失敗している確率は？雌牛の体が少し小さいけれど、それは血統に

関係しているのだろうか？そんな話を皆がタブレットに示されるデータだけを見ながらできるようなになればどんなに便利だろう。

moopadは外部からのデータアクセスを設定することも可能なので、遠隔で議論や相談を行ったり、指導することもできる。例えば研修生が自立して自分の牧場を始めたときにその

データをmoopadに入れば、永松さんがそれを見ながら助言することもできるだろう。永松さんを囲んで熱心に議論する人々を眺めながら、そんなことを考えていた。

県外からここを訪れて永松方式を学ぼうとする人も多い。これを広めて行くことは地域だけでなく日本の課題であるとも言える。そのためには永松さんの持つノウハウを理論としてまとめて行くことが重要になってくるだろう。

moopadのようなシステムが、データ基盤として永松方式の理論作りにも貢献していくのは喜ばしいことであると思う。

寄稿：中小企業診断士 北岡 正一



畜産農家の強い味方！ビッグデータで、もっとラクに確実に！

【お問い合わせ】株式会社日本コンピュータコンサルタント CS部 福岡市博多区博多駅東1-11-5 アサコ博多ビル8F 電話：092(411)8259 担当：高倉まで